

Cisco IQ Linkリリースノートv1.2.0

はじめに

Cisco IQ™は、資産の可視性の向上、環境全体にわたるよりスマートなインサイトの提供、およびケース管理の合理化を目的とした拡張機能と機能をお客様に提供します。さらに、AI AssistantなどのAI機能は、状況に応じた情報に基づいたプロアクティブな意思決定や、顧客エンゲージメントと成功のためのプロセスの合理化を可能にするコンテキスト認識を提供することで、運用成果とCisco IQユーザエクスペリエンスを最適化します。

Cisco IQ Linkは、資産テレメトリを安全に収集し、オンプレミスネットワークからCisco IQに送信します。これにより、AIを活用した予測的な洞察が可能になり、ネットワークの可視性を高め、問題を予測し、運用効率を高めることができます。

このドキュメントでは、Cisco IQ Link v1.2.0の新機能と既知の問題について説明します。

主なポイント

このバージョンでは、次の新機能が導入されています。

新しいデバイス収集のサポート

Cisco IQ Connectorは、強化されたデバイス検出機能をサポートするようになりました。

CDPとLLDPの検出

Cisco Discovery Protocol(CDP)およびLink Layer Discovery Protocol(LLDP)プロトコルを使用して、シードデバイスからデバイスを検出できます。

IP範囲の検出

Cisco IQ Connectorで、指定したIPアドレス範囲内のデバイスをスキャンできるようになりました。

ファイルのアップロードを使用したスキャン

ユーザは、複数のIP範囲と複数のCDPおよびLLDP入力を含むファイルをアップロードして、デバイス検出を自動的に実行できます。

ユーザ管理の機能拡張

次の機能拡張は、ユーザ認証と管理プロセスを簡素化し、システム内のユーザに対する制御とセキュリティを向上させることを目的としています。

Microsoft Entra IDP SSO

Cisco IQ Linkは、シームレスなシングルサインオン(SSO)機能のために、Identity Provider(IDP)としてMicrosoft Entra ID (以前のAzure AD) をサポートするようになりました。これにより、組織は既存のEntra IDインフラストラクチャを使用して、中央集中型の認証を実行できます。この機能は、既存のエンタープライズグレードのMulti-Factor Authentication(MFA)と条件付きアクセスポリシーを利用してセキュリティを強化します。

ローカルユーザ管理

ユーザは、個別のアクセス権限を使用して、複数のユーザを安全にオンボーディングおよび管理できます。管理者が作成したローカルユーザは、最初のログイン時に「サインアップ」オプションを使用し、管理者が設定した電子メールアドレスを使用して安全に自分のパスワードを設定できます。

セルフサービスセキュリティ管理

ローカルセキュリティ設定を個別に管理できるようになり、アカウントのアクセスと回復を制御できるようになりました。セルフサービス機能には、パスワードを忘れた場合にパスワードをリセットする機能や、セキュリティに関する質問を設定する機能が含まれており、外部サポートを必要とせずに、より合理的で安全なユーザエクスペリエンスを実現できます。

設定可能なログインバナー

セキュリティのベストプラクティスへの準拠をサポートするため、Cisco IQ Linkには設定可能なログインバナー機能が用意されています。この機能を使用すると、アカウント管理者はログイン画面に必須のシステム通知やセキュリティ警告を表示できます。バナーは完全にカスタマイズ可能で、ログインの前に明示的なユーザ確認を要求するように設定できます。

既知の問題

Cisco IQ Linkでは、次の問題に積極的に取り組んでいます。

繰り返しスケジュールフィールドにUNIX cron構文が表示される

現在、ネットワークスキャンファイルのアップロードに対して繰り返し入力されるスケジュールには、5つのフィールドを含むUNIXのcron式が必要です(たとえば、0 2 * * *)。cron構文に慣れていないユーザは、この入力形式が不明な場合があります。ただし、cronの構文と例に関するより詳細な情報をオンラインで入手できます。

Syslogサーバアドレスの制限

現在、Syslogサーバは完全修飾ドメイン名(FQDN)ではなく、IPアドレスとして指定する必要があります。

プロキシ認証特殊文字の制限

現在、プロキシ認証クレデンシャルは特殊文字をサポートしていません。プロキシのユーザ名またはパスワードに特殊文字を使用すると、Cisco IQ LinkとCisco IQの間で通信の問題が発生する可能性があります。

解決済みの問題

次の問題は、v1.2.0リリースの一部として解決されています。

パスワード同期

以前は、Cisco IQ Link UI (Local Admin Security設定の下) を使用してローカル管理者のパスワードを更新すると、VM SSHアクセスとの同期に失敗し、認証エラーが発生していました。この問題は解決され、ユーザは手動による介入や追加のサポートを必要とせずに、UIを使用してクレデンシャルを更新して認証の競合を解決できるようになりました。

データ収集中のAPIレート制限エラー

以前は、要求ボリュームがCatalyst Center APIのレート制限を超えたときにCisco IQ Linkが完全

なデバイスデータセットを収集できなくなり、「API rate limit exceeded」エラーが発生することがありました。この問題は解決されました。データ収集プロセスは、より効率的に要求を管理するために最適化されており、これらのエラーを防止し、一貫したデータ取得を保証します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。